

開設時から良質な慢性期医療の提供に努め ロボットリハでの新たな挑戦を開始

平成医療福祉グループ



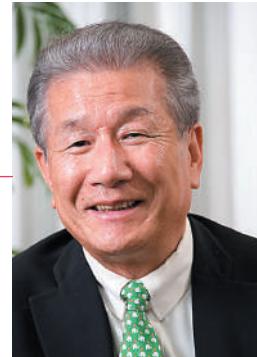
■ロボットリハチーム



■HAL福祉用下肢タイプとHonda歩行アシストによる歩行訓練



平成医療福祉グループは近年注目されているロボット機器を導入したリハビリに力を入れている。なかでも東浦平成病院、博愛記念病院、印西総合病院は先駆的に歩行や基本動作の練習にロボット機器を活用。今回、身体機能に障害を抱える方におこなうロボットリハの実践について話を聞いた。

理事長
武久 洋三

たけひさ・ようぞう／平成医療福祉グループ代表。日本慢性期医療協会会長。リハビリテーションの重要性、特に摂食嚥下リハ、排泄リハの重要性を広く発信すると共に、ロボットなど最新リハ機器の活用も推奨している。

ロボットリハチーム
サブリーダー
(印西総合病院)
前田 浩太郎ロボットリハチーム
サブリーダー
(博愛記念病院)
大寺 誠

平成医療福祉グループ ロボットリハ導入病院 一覧

東京都				兵庫県		
世田谷記念病院	○	○	○	東浦平成病院	○	○
多摩川病院	○	○	○	平成病院	○	○
緑成会病院	○	○	○	西宮回生病院	○	○
平成扇病院	○	○	○	神戸平成病院	○	○
千葉県				徳島県		
印西総合病院	○	○		博愛記念病院	○	○
神奈川県				江藤病院	○	○
平成横浜病院	○	○		徳島平成病院	○	○
大阪府				山口県		
豊中平成病院	○	○		山口平成病院	○	
浜寺中央病院	○	○				
岸和田平成病院	○	○				
泉佐野優人会病院	○	○				

くわしくはグループホームページへ▶ <http://hmw.gr.jp/>

平成医療福祉グループ

検索

専門チームを結成し
「絶対に見捨てない」を実践

グループ内の各病院には
嚥下、排泄、離床などのチ
ームがあるが、ロボットリ
ハについても専門のチーム
を結成。チームの國廣澄仁
トスースHAL福祉用下肢
タイプ」歩行訓練機器「ホ
ンダ歩行アシスト」のいず
れかを導入（うち両方導入
は8病院）。脳梗塞による
下肢の麻痺など身体障害を
抱えた患者に対し、ロボッ
トリハを積極的に実施して
いる。

「HALを装着して、動か
なかつた部位が少しでも動
くようになると、患者さん
は驚かれて、もっと頑張る
うとりハビリへのモチベー
ションが上がる方が多いで
す」（ロボットリハチーム
の大寺誠サブリーダー）。

各院のロボットリハ担当
者が、稼働状況、どんな課
題が見つかり、どう対処し
たなどを話し合うテレビ
会議を毎月実施している
も特徴だ。知識や経験がグ
ループ内で蓄積、共有さ
れ、互いの運用連携がし
かりとなされていること
が、先進機器を使いこな
し、患者の意欲と笑顔を引
き出す大きな原動力になっ
ていて。

グループ内で連携し、課題 解決策などの情報を共有

導入から2年以上が経

ち、「ロボットリハに取り
組まる患者さんは年々増
加傾向にあります」（ロボ
ットリハチーム・前田浩太
郎サブリーダー）。

ロボットリハチームリーダー
(東浦平成病院)

国廣 澄仁